ダイダラボウの伝説

茨城県

大昔、現在の水戸市大足（おおだら）あたりに「ダイダラボウ」という巨人が住んでいました。

頭は雲までとどくほどで、あまりにも大きい体だったものですから、だれかが「ダイダラボウさん」と声をかけてもなかなか声が届かないほどでした。

そんな大きな体のダイダラボウ。「おらがいることで迷惑になんめえか」と周りに気を遣う優しい心の持ち主だったので、村のみんなからとても好かれていました。

村は百姓が多く、田畑を耕して暮らしていましたが、南に高い山があって、朝と夕方しか陽が当たりません。作物はよその村の半分ほどしか取れず、村はとても貧乏でした。

「冬は寒くて仕方ねえ」「この山がなければいいのに」という村人の声を聞いたダイダラボウはある時ふと思いつき、「そうだ。みんなの役に立つのはこういう時だ。おらがこの山をどこかに移してみんなの苦しみを救ってやっぺ」と、その山を北の方へ移しました。ところが、今度は山を動かした後にできた大きな穴に水がたまり、雨が降ると村が水浸しになってしまいました。ダイダラボウは、指で小さな川を作り、水が流れるようにして、下流に沼も作りました。

村人たちは大そう驚きましたが、山が移動したので陽当たりが良くなり作物もよく育つようになり大喜び。この山が水戸市・笠間市・城里町にまたがる「朝房山」で、指で作った沼が水戸市の「千波湖」だということです。

その後、ダイダラボウは大串（現在の水戸市汐崎町）に移り住みました。ダイダラボウは貝を食べるのが大好きで、海岸に落ちている貝を拾っては食べ、捨てた貝殻はどんどん積み上がり丘（貝塚）になりました。

この貝塚は、縄文時代前期に形成されたという「大串貝塚」で、日本最古の貝塚として国の史跡に指定されています。海岸線まで約5キロも離れ、巨人がいかに大きかったか想像は膨らみます。

この他にも、茨城県内にはダイダラボウの伝説が各地に残っています。地域の伝説や民話、歴史を探ってみてもいいですね。

〈参考文献〉読みがたり（茨城のむかし話（茨城民俗学会）編）

※掲載事項には諸説あります。

お出かけの際には、周囲の状況等に十分ご配慮いただけますようお願いいたします。

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社
本社／〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215（大代） https://www.ibaraki-isuzu.co.jp